

中学校社会科公民的分野における 「文化」の学習の位置付け

三 木 健 詞

要 約

平成20年改訂の中学校学習指導要領社会科公民的分野において「文化」の学習の充実が図られたことから、その学習の位置付けを、過去の学習指導要領や解説との比較検討や教科書の記述分析を通じて明らかにした。この結果、「文化」の学習は、近年の「文化」を巡る動向を背景にして、従前より政治、経済、国際のどの単元とも深く関わっていることがわかった。平成29年改訂では、「文化」の学習を配置する社会単元が地歴分野からの接続により重点が置かれており、分野全体を見据えた「文化」の学習構想が求められる。

キーワード：中学校 社会科 公民的分野 文化

I. はじめに

本稿のねらいは、現行学習指導要領を中心に、中学校社会科公民的分野における「文化」の学習の位置付けを明らかにすることである。教育基本法の全面改正を受けて、平成20年告示の学習指導要領（以下、「平成20年版」）のように告示年を明記して略記する。なお、学習指導要領の指導書や解説については、「平成20年版解説社会編」のように略記する）では、「伝統や文化に関する教育」が重視され、公民的分野においても「文化」の学習の充実が図られた。前回の「平成10年版」では、授業時数削減に伴う内容縮減の影響もあって、公民的分野で「文化」の学習が扱われなくなっていた。それだけに、「平成20年版」での「復活」は注目されたが、これを対象とした研究は少ない。そこで、「平成20年版」における「文化」の学習はどのように位置付けられているのかを考察したい。

先行研究は、教育課程全体で行う伝統や文化に関する教育の意義、実践校の成果と課題について論じたものはある（中村2009、永添2011）が、中学校社会科における「文化」の学習を正面から取り上げた論考は、管見の限り、大友論文（2014）のほかにはない。大友は、過去の学習指導要領から、社会科が一貫して「文化」の学習を重視し、そのねらいが「文化遺産」「異文化理解」「文化の機能」「生活文化」「博学連携」などにあることを明らかにした。そして、「平成20年版」が求める、「公共」に参画する資

質・能力の育成に向けたシティズンシップ教育の可能性を論じている。大友論文は、戦後社会科における「文化」の学習の意義を明確にし、「文化」を「公共」の視点で学習に活かす提案をした点に学術的価値がある。本稿は、社会科3分野を俯瞰した大友論文の成果を参照しつつ、研究の内容と方法を次のように設定した。

- (1) 「平成20年版」の社会科公民的分野における「文化」の学習の位置付けを、学習指導要領、「指導書」「解説」をもとに「平成元年版」などと比較検討して明らかにする。
- (2) 「平成20年版」に表れた公民的分野における「文化」の学習のねらいが、主たる教材である教科書の記述などにどのように反映されているかを、「平成元年版」教科書との比較を通して明らかにし、文化をめぐる近年の動向から、「文化」の学習の位置付けを考察する。最後に、「平成29年版」公民的分野における「文化」の学習の実践上の課題を展望する。

Ⅱ．「平成20年版」公民的分野における「文化」の学習の位置付け

「文化」の学習は、社会科の各分野で扱われている。大友（前掲）も示したように、「文化」の学習は、地理的分野では日本・世界の諸地域の生活文化に、歴史的分野では各時代の特色を表す文化遺産に、そして公民的分野では現代の社会における文化の働きにそれぞれ焦点を当てて棲み分けがなされてきた。教育基本法の改正を受けて、「平成20年版」では、社会科の改善事項に、「様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向」が示された。「様々な伝統や文化、宗教」に関する学習の充実は、グローバル化が進展する時代に国家・社会などの「公共」の形成に主体的に参画する日本人を育成するには、自らのアイデンティティの基盤となる伝統や文化を尊重し、同時に国際社会の一員として他国の人々をも尊重する資質の育成が必要であることから導かれている（安野2010）。こうした経緯を踏まえ、平成20年版」公民的分野における「文化」の学習の位置付けについて、学習指導要領の「文化」に関する記述（【表1】）、「解説」「指導書」の記述を、従前のそれらと比較分析した結果を次の3点に整理し、その背景についても考察した。

- (1) 「文化」の学習を冒頭の社会単元に置き、「文化」を社会の機能面からとらえる一方で、「文化の影響」が新たに強調されている。

大項目(1)では「現代日本の特色」で現代社会の特色をまず理解させるが、続く「現代社会における文化の意義と影響」は「平成元年版」の「社会生活における

【表1】 学習指導要領公民的分野「内容」「内容の取扱い」に見られる「文化」の記述

平成元年告示	平成10年告示	平成20年告示
<p>[内容]</p> <p>(1) 現代の社会生活 ア 個人と社会 <u>イ 現代の文化と生活</u> 国や地方による文化と生活の違いに注目させ、現代の社会生活における文化の働きを理解させるとともに、我が国の伝統に対する関心を深め、文化の継承と創造の意義に気付かせる。 ウ 情報と社会</p> <p>(2) 国民生活の向上と経済</p> <p>(3) 民主政治と国際社会</p> <p>[内容の取扱い]</p> <p>(2)イ 内容の(1)イについては、抽象的な理論の学習に陥ることなく、生徒が興味や関心をもって学習できるように工夫するとともにそれぞれの国や地方の文化について互いに理解し尊重し合うことが大切であることを気付かせること。</p>	<p>[内容]</p> <p>(1) 現代社会と私たちの生活 ア 現代日本の歩みと私たちの生活 イ 個人と社会生活</p> <p>※「文化」に関する記述なし</p> <p>(2) 国民生活と経済</p> <p>(3) 現代の民主政治とこれからの社会</p>	<p>[内容]</p> <p>(1) 私たちと現代社会 <u>ア 私たちが生きる現代社会と文化</u> 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。また、現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、我が国の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気付かせる。 イ 現代社会をとらえる見方や考え方</p> <p>(2) 私たちと経済</p> <p>(3) 私たちと政治</p> <p>(4) 私たちと国際社会の諸課題 ア 世界平和と人類の福祉の増大</p> <p>[内容の取扱い]</p> <p>(2)ア 内容の(1)イ「現代社会における文化の意義や影響」については、科学、芸術、宗教などを取り上げ、社会生活とのかかわりなどについて学習できるように工夫すること。「我が国の伝統と文化」については、歴史的分野における学習の成果を生かして特色あるものを扱うこと。</p> <p>(2)イ 内容の(1)については公民的分野の導入部として位置付け、ア、イの順で行うものとし、適切かつ十分な授業時数を配当すること。</p> <p>(5) 内容の(4)アの「世界平和と人類の福祉の増大」については、国際社会における文化や宗教の多様性についても触れること。</p>

[著者作成、下線部も著者]

文化の働き」よりも一般的な内容表記となった。「解説」からは、「文化」を社会の発展の源泉、社会生活を豊かにするなどと、機能面からとらえる従前の方針が継承されていることがわかる（大友、前掲）。他方で、「文化の影響」が新たに登場した点が注目される。これは、現代社会の特色であるグローバル化などが政治、経済、国際関係に与える影響に気付かせる前半部分に関連して、中項目全体の整合性を図ろうとしたものと考えられる。

さらに、「平成20年版」の変更点として、社会単元の位置付けを導入必須としたことが挙げられる。その意図は、地理的・歴史的分野と公民的分野との一層の接続を図り、3分野のまとまりを高める点にある（「平成20年版解説社会編」p.117）とされるが、そればかりではない。「平成20年版」では、教育課程全体にESDの視点が盛り込まれ、社会科でも持続可能な社会の形成を視野に入れた内容構成が図られた。公民的分野の最後を、「よりよい社会を目指して」という課題探究型の学習で締めくくったのは、改訂の象徴である。加えて、冒頭単元の「私たちが生きる現代社会と文化」に、未来に向けた時間軸で串を通した「文化の継承と創造」の学習を配したことは、公民的分野におけるESDの視点をより明確にする意図があると考えることができる。

- (2) 社会単元で、「文化の継承と創造」の部分は従前の趣旨を継承しているが、関心を喚起させる対象に「文化」と並列で「伝統」を加えている。

「平成20年版」に示された「伝統と文化」の表記については、過去の学習指導要領の表記を辿ると次のことが明らかになる。第一に、「伝統」「文化」という2つの用語は、「昭和33年版」から「平成元年版」まで一貫して使用されてきた点である。「昭和33年版」（「政治・経済・社会的分野」）では、「(6)現代の諸問題」「文化の創造と伝統の継承」の項で、「わが国文化のよい伝統を継承しながら、同時に、…（中略一筆者）普遍的にしてしかも個性豊かな文化を創造しようとする熱意と態度を養う」と記述されていた⁽¹⁾。すでに「文化の伝統の継承」と「文化の創造」とを一体ととらえる内容が読みとれる。

その後「昭和44年版」を経て「昭和52年版」には、「(1)民主主義と現代の社会生活 ウ 現代の文化と生活」の項で「我が国の文化の伝統に関心をもち、ともに、文化を創造する意義に気付かせる」と記述は簡潔になる。ただ、「指導書」の解説を見ると、従前の趣旨は継承されていることがわかる。「自分たちの生活やものの考え方に我が国の文化の伝統が生きており、新しい文化を受け入れたり、文化を独自のものとして生み出したりするには、我が国の文化が母体となっていることを、生徒に気付かせる」（「昭和52年版指導書社会編」p.129）。さらに、「平成元年版」では、「我が国の文化の伝統に対する関心を深め、文化の継承と創造の意義に気付かせる」とあるが、これも従前の趣旨をより明確にした⁽²⁾ということができ、「平成20年版」でも変更はない。

第二に、「平成20年版」では、従前「文化の伝統」とされてきた部分が「伝統と文化」に改められた点である⁽³⁾。前者は、先人たちの努力で受け継がれてきた文化遺産といった意味だと考えられるが、後者は両者を並列としている点で異なる。そこで、この変更がもつ意味について若干考察したい。

何より大きかったのは、改正教育基本法の条文との整合性である。改正法では、

旧法を継承した前文冒頭の「民主的で文化的な国家」の表記を除くと、次の2か所に「伝統」と「文化」が見出される（下線、省略を表す「…」一筆者）。

前文「…我々は、…公共の精神を貴び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。…」

第2条（教育の目標）第5項「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」

一見すると下線部の2か所は異なる印象を受けるが、国会論議の中で政府側は、前文の「伝統」には文化が含まれると答弁しており、法解釈上は同じことになる（田中2007、p.20）。定義については、「伝統」のそれは政府側の答弁にある（田中、前掲、p.20）が、「文化」は「伝統」とかなり重なる例示をするに留まっていた（田中、前掲、p.52）。ただ、逐条解説書には定義が記載されており、了解される内容はあったと推測される。実際の定義の初出は平成27年告示の「学習指導要領解説 特別の教科道徳編」である。「16 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」の欄（p.56）に、次のように示された⁽⁴⁾。

「伝統」とは、長い歴史を通じて培い、伝えてきた信仰・風習・制度・思想・学問・芸術などのことであるとともに、特にそれらの中心をなす精神的な在り方のことである。

「文化」とは、人間が自然に手を加えて形成してきた物心両面の成果を指し、衣食住をはじめ技術・学問・芸術・道徳・宗教・政治など生活形成の様式と内容を含んでいる。

ここに示された「文化」の定義は、「民族の生活様式の総体」という意味で、一般に用いる文化人類学者の理解に近い（『文化人類学事典』『文化の概念』の項）。文化庁の「文化芸術の振興に関する基本方針（平成14年閣議決定）」やユネスコの「文化的多様性に関する世界宣言（2001年）」に見られる「文化」の定義もほぼ同様である⁽⁵⁾。もっとも、文脈によって多義的に解釈されることが多く、「平成20年版」でも国際単元に記載された「文化」は、「文化や宗教の多様性」という文言で「宗教」と並列である。

これに対して、「伝統」の定義は「文化」に含まれる内容も多く、「伝統・文化」と表記されることもあるが、受け継がれてきた歴史的側面、精神的側面に力点が置かれていることがわかる。人類学者の青木（1992）も、両者の重なりを認めつつ、「文化」はより現在的、共時的であるのに対して、「伝統」は歴史性が強調さ

れ、意識的に創り出されるとして、いわゆる「創られた伝統」観を述べている。

この点について、「平成20年版解説社会編」はどのように記述しているかを確認する。「我が国の伝統と文化に関心をもたせる」際は、「私たちの生活のなかにみられる我が国の伝統的な考え方や信仰、習慣などの影響に触れ」る、としている。また、私たちの行為や生活への伝統と文化の影響を理解させるために、生活文化などを例に、「我が国の伝統と文化が自然や社会とのかかわりの中でどのように受け継がれてきたか」、「日本人の心情やものの考え方の特色に気付かせ」る、と記述されている。このように、「伝統」の歴史性や精神性を読みとることはできるが、「伝統と文化」を一体としていることもあって、「伝統」を強調する表現は見られない。

歴史性、精神性に力点が置かれる「伝統」については、「文化」と分かちがたく結び付いて、価値あるものとして冷静な検証ができなくなることへの懸念や批判がある（大塚2004、pp.20-21）。これは、「文化」を固定した所与の実態ととらえる本質主義的考え方にもつながる（『現代国際理解教育事典』の「本質主義／構築主義」の項）。すでに地理的分野の「解説」では、世界の諸地域学習の「内容の取扱い」で、文化を固定的にとらえることへの注意が明記されている（「平成29年版」は【表5】参照）。本質主義か構築主義かの両極の学術的な議論（渡辺2015、pp.156-160）には深入りしないが、「伝統と文化」の併記については、「伝統」を所与の、不動の価値ととらえない学習上の工夫が必要であると考ええる。

(3) 国際単元に「国際社会における文化や宗教の多様性」が初めて登場する。

この点は、「平成20年版」で確認できるが、前出の(1)、(2)が日本国内を想定している点と対になっているともいえる。中項目「世界平和の実現と人類の福祉の増大」では、国際協調の観点から理解、考察させるとあるが、「平成10年版」の同じ中項目でも「解説」に全く言及がなかった。登場の契機は教育基本法改正にある。ただ国会論議では、宗教に関する第15条に「宗教に関する一般的な教養」を追加するに際して、国際関係が緊密化、複雑化する中で他国・他地域の歴史や文化を学ぶ上でその背後にある宗教の理解が欠かせないとする見解が出され（田中、前掲、pp.174-179）、改正の趣旨からいえば、「文化」よりも「宗教」に力点が置かれたものと考えられる。

Ⅲ. 社会科公民的分野の教科書記述にみる「文化」の学習の位置付け

本節では、これまでみてきたように学習指導要領上で位置付けられた「文化」の学習が、主たる教材である教科書において実際にどのように記述されているかを分析し、学習指導要領や「指導書」「解説」のねらいとの整合性を考察し、結果を以下に整理

した。教科書⁽⁶⁾は、「平成20年版」の7点の記述を取り上げ、「平成元年版」8点の記述と比較分析を行った。さらに、「文化」の単元がない「平成10年版」についても必要に応じて参照した。「平成20年版」教科書は、「平成元年版」のそれと比べて、判型（A5版からAB版へ）やページ数（250-260頁から230-240頁程度へ）が変わり、本文の文字量や図版の点数が増加したことを予め記しておく。なお、【表2】（東書版）、【表3】（帝国版）に「平成元年版」と「平成20年版」の具体的な記述を掲載した。

- (1) 「平成20年版」は、「文化」の機能を科学、芸術、宗教などから記述しており、社会の変化と関連付けて理解されやすい。

「文化」の定義は、ほとんどの教科書に見られるが、「平成20年版」の方が個別事例を挙げるなど詳細である。「文化」の機能としては「生活や心の豊かさにつながる」「社会をまとめる」などの記述に集約されるが、「平成元年版」では「芸術や学問がアメリカの独立やフランス革命をもたらす原動力となった」（清水版）といった記述を除くと、概して一般的、抽象的である。これに対して、「平成20年版」では科学、芸術、宗教の役割を取り上げながら、現代社会において文化が物心両面で私たちに豊かさをもたらしている点をわかりやすく示している。新幹線や臓器移植、コンサートや年中行事など、中学生にも身近な事例で語られているのが特徴である。

これは、「平成20年版」「内容の取扱い」で「科学、芸術、宗教などを取り上げ」と方策を示していることの反映である。また、現代社会の特色であるグローバル化、情報化、少子高齢化などの社会の変化が、文化にも影響を及ぼしていることを生徒の生活実感を伴う形で身近に記述している。また、グローバル化と関連付けて多文化共生、異文化理解の必要を説く記述がほとんどで、「解説」では国際単元に記載のある「文化の多様性」が小見出しに使われる（帝国版）などの教科書が多かった（4点）。

他方で、「解説」の「個々の文化には人類共通の普遍性とそれぞれの文化特有の特殊性」があることに着目させる、という部分については、各社苦戦している。「人類共通の普遍性」は、「国際社会に生きる日本人の育成」を念頭に置き、「文化」の学習が偏狭な文化ナショナリズムに陥らないよう意図して、今回挿入したものと考えられる。富士山や和食が世界遺産に認定されたことを記述した教科書（日文版）が注目されるが、明示的な記述は数少なく（他に帝国版）、課題として残された。

- (2) 多くが「伝統文化」という用語を使用し、外来文化の吸収を通じた日本の文化形成に力点を置く一方で、日本の地域的多様性に注目させる記述もある。

「平成元年版」では「文化の伝統」、「平成20年版」では「伝統と文化」と、関心をもたせる対象が異なっている点について、教科書記述ではその違いは読みと

【表2】社会単元における「文化」の教科書記述（東書版）〔著者作成〕

〔凡例〕㊦は写真を、㊧は資料を、㊨は図版などを示す。掲載した内容は一部省略しているものもある。

平成元年版	平成20年版
<p>第1章 現代社会とわたしたち</p> <p>1 現代の文化とわたしたち</p> <p>【さまざまな文化を知ろう】</p> <p>〔世界の国の文化や人々の暮らし方には、どのようなちがひがあるのだろうか〕</p> <p>㊧1 世界の学校 ㊧2 世界の言葉 〔考えてみよう・話し合ってみよう〕世界の人々と交流していくうえで大切なことはなんだろうか。㊦ 世界のさまざまな暮らしと文化（リオのカーニバル、アメリカのハロウィーンの子どもたち、セネガルの昼食の用意等）</p> <p>【日本の文化とわたしたち】</p> <p>〔日本の文化はどのような特色をもっているのだろうか〕</p> <p>㊧3 さまざまな文字で書かれる日本語</p> <p>〔考えてみよう・話し合ってみよう〕わたしたちの生活のしかたのなかで日本独自のものと外国のものとが混じり合っている例をあげてみよう。「日本人はこれらの文化（海外の文化一筆者）を基礎に、長い歴史をとおり日本独自の精神的文化を生み出し、伝統文化として発展させ、子孫に伝えてきた」</p> <p>㊦ さまざまな日本の伝統文化（能楽、平等院鳳凰堂、浮世絵、流し雛、和紙の製造を学ぶ奨学生たち）㊧4 日本人の行動</p> <p>〔考えてみよう・話し合ってみよう〕文化とはどんなものをいうのか、自分の考えを発表してみよう。</p> <p>【「もの」と「心」…文化のいろいろ】</p> <p>〔もの文化と心の文化について考えてみよう。〕</p> <p>㊧5 ものの豊かさ・心の豊かさ 〔考えてみよう・話し合ってみよう〕「豊かな心の文化」とはどんなことをいうのか、自分の考えを発表してみよう「経済的に発展した日本は、これから豊かな精神文化の創造にいつそう力を注ぎ、だれもがともに生きる豊かな社会をつくるための努力をしていかなければならない」㊦ 休日の銀座、ラサ市内</p>	<p>第1章 現代社会と私たちの生活</p> <p>2 節 私たちの生活と文化</p> <p>1 私たちの生活と文化の役割 ㊦ 富士山（全景、富嶽三十六景、万葉集等）㊨ 世界のあいさつ</p> <p>【私たちの生活と文化】「文化には…教養という意味…。そのほかにも、生活環境の中で身につけた行動の仕方や価値観、それらによって生み出されたものを意味する…」</p> <p>【科学・宗教・芸術】（各々の役割の記述一筆者）</p> <p>【文化の役割と課題】「…文化にはこのような側面（害をもたらす危険性や対立、紛争一筆者）があることを理解し、文化が人々の暮らしと平和に役立つよう努めていく必要があります」</p> <p>・公民にアクセス：科学の役割と科学者の願い</p> <p>〔科学、宗教、芸術のうち1つ選び、自分の生活とのかかわりと果たしている役割を説明しましょう〕</p> <p>2 暮らしに生きる伝統文化 ㊦ 日本の主な年中行事、能、茶道</p> <p>【伝統文化とは】「（大陸文化の影響を受けながら独自の文化を一筆者）長い歴史の中で育まれ、人々に受けつがれてきた文化を伝統文化といいます」「能や歌舞伎といった一部の専門家によって受けつがれた文化と…生活文化」「おかげさま…おもてなし」といった言葉に込められた価値観や心情も伝統文化」</p> <p>㊦ 日本全国の雑煮、エイサー、ゴーヤーチャンプル、アイヌ古式舞踊、津軽三味線を練習する中学生など</p> <p>【日本文化の地域的多様性】「（琉球文化、アイヌ文化の記述一筆者）このような多様な文化が存在することで日本の文化は豊かなものに」</p> <p>【伝統文化の継承と保存】「今日、…祭りなどの伝統文化の継承者である若者が少なくなり、…」「国や都道府県、市（区）町村は文化財保護法により…文化財の保護に努めて…」「私たちは伝統文化を継承して…そこから新しい文化を創造していくことが求められて」「私たちの身近で伝統文化が保存、継承されている例を挙げ説明しましょう」</p> <p>3 多文化共生を目指して</p> <p>㊦ パリの書店の日本漫画、ロンドンの回転ずし店など</p> <p>㊧ マータイさんと演説内容（「もったいない」一筆者）</p> <p>【世界に広がる日本文化】「すしや天ぷらといった食文化、…スポーツ、漫画やアニメ」「『もったいない』という言葉は…マータイさんによって」「さまざまな文化が…日本…に影響」</p> <p>【日本の中の外国文化】「日本には、…外国にルーツを持つ人々がたくさん暮らして…自国の文化を大切にしながら生活（東九条マダン、浜松市のサンバフェスティバル一筆者）」</p> <p>㊦ サンバフェスティバル、東九条マダンなど</p> <p>【多文化共生と異文化理解】「多文化共生を実現していくために…異文化理解が求められます。異文化を理解することは自分の文化に対する理解を深めることにも」「さまざまな文化や考え方を持つ人が協力し合うことでより良い社会を築くことができる」</p> <p>・公民にアクセス～多文化共生のまちづくり-静岡県浜松市-</p> <p>〔多文化共生の社会を築くために自分にできることを3つ挙げ説明しましょう〕</p> <p>■深めよう～伝統文化の継承と私たち</p> <p>〔そのような中学生たち（伝統文化をにない、保存活動に取り組む中学生一筆者）の姿を通して、日本の伝統文化の継承と発展のために、私たちには何ができるのか〕（4つの事例一全国子供歌舞伎フェスティバル、宮崎県の子ども神楽、石巻市の復興和太鼓、大田市の世界遺産学習）</p>

【表3】社会単元における「文化」の教科書記述（帝国版）〔著者作成〕

〔凡例〕㊟は写真を、㊿は資料を、㊠は図版などを示す。掲載した内容は一部省略しているものもある。

平成元年版	平成20年版
<p>第Ⅲ部 社会の変化と私たちの生活</p> <p>第2章 現代の文化と生活</p> <p>1 変化する生活と文化 [私たちの生活を支える文化とはなんでしょうか。文化の働きや変化を調べ、伝統文化の意義を考えてみましょう]</p> <p>㊟ 農業社会から工業社会へ</p> <p>【生活のなかの文化】「衣食住を代表として、…日常生活の営みや、より便利でゆたかな生活を求めるためにつくられたもの全体を文化」「文化は社会をまとめ、社会生活をよりよく営むための行動のよりどころでもあります」</p> <p>【伝統文化と今日の文化】 ㊟ 伝統文化を受けつぎ伝える（中学生がおどりを小学生に）「先人たちはこうした自然の変化（四季の変化―筆者）に生活を合わせるくふうを（家屋や祭りの事例紹介―筆者）」長い年月をかけて…生み出され、くふうされ、受けつがれて発展…</p> <p>…伝統文化が教えてくれる先人たちの知恵をどのように未来に生かすか…が私たちの課題」</p> <p>2 さまざまな文化と生活 [国家や民族で独自の文化と生活が営まれているのはなぜでしょうか。日本の文化の特色はなんでしょうか]</p> <p>㊟ お神輿はどこからきたのか（三社祭）</p> <p>【国家や民族で異なる文化】（本文引用略）</p> <p>㊠ 方言ともちの形の分布</p> <p>【日本の文化と私たち】「日本は外国のすずんだ文化を積極的に取り入れ、日本に合うようになて日本の文化を発展させ（あんぱん、鎌倉仏教―筆者）」「日本の伝統文化は古い世代から新しい世代へと受けつがれて発展し…」「新しい文化を創造していく…さい、伝統文化のなかの価値あるものを生かしていく…たいせつ」</p> <p>3 文化の相互理解と創造 [国際化の時代にどうすれば異なる文化の人たちを理解し、かれらと交流することができるのでしょうか。そして新しい文化を創造するために必要なことは何でしょうか]</p> <p>㊟ 日本の工場で働くアフガニスタン人等</p> <p>【異なる文化の理解】「自分の文化を基準にして他の文化を判断することなく、…おたがいに尊重し合うことがたいせつです」</p> <p>【新しい文化の創造】 ㊟ 中国の芸術団と日本の小学生、大相撲のバリ興行「現代…文化は画一化され独創性が失われがちだとも…」「人類の歴史をふりかえって…文化は他の異なる文化と接触し、交流することによって発展してきた」「私たちも、日本の伝統文化を学ぶとともに、先人たちがなしとげたように他国のすぐれた文化を取り入れて、人間性ゆたかな、新しい文化を創造していく必要があります」</p> <p>■課題に挑戦!! 異文化の理解（課題追究型）</p> <p>㊿1 世界各地の食生活 ㊿2 南海の酋長ツイアピの演説 [日本の生活のようすとその特徴をどのように説明したらよいか。南海の酋長の演説を読んで、どこにももの見方や考え方のちがいがあるかまとめてみよう]</p>	<p>第1部 私たちと現代社会</p> <p>第2章 私たちの生活と文化について考えよう</p> <p>1 生活に息づく文化 ㊟ 世界の様々な宗教</p> <p>【生活に息づく文化】「衣食住をはじめとする私たちの生活様式そのものや、科学、芸術、宗教など人々が形づくってきたものを文化…」</p> <p>「文化は私たちの生活や人生をより豊かなものに（科学技術、芸術、宗教の役割―筆者）」</p> <p>㊟ さまざまな文化の違い（食事のマナーなど）</p> <p>【文化の多様性と異文化理解】「多様で豊かな文化…にこめられた人々の思いには共通するものが…。一方で、…文化の画一化も」「…おたがいの文化の価値を認め、複数の文化の共生をめざすという異文化理解が求められています」</p> <p>㊟ ファーストフードチェーン店 [なぜ異文化理解が求められているのか、『自国の文化』を用いて説明しましょう]</p> <p>2 日本の伝統・文化 ㊟ 東日本大震災で再確認された「助け合い」や「和」の精神、平仮名・片仮名の成り立ち</p> <p>【外来文化を受け入れてきた日本の文化】「多様な文化を受け入れる姿勢は、…さまざまな神の存在を認める考え方の影響があるとも」</p> <p>㊟ 白米千枚田 ㊟ 日本の伝統的な年中行事 ㊿ 日本のはこり（世論調査）</p> <p>【自然と一体化した日本の文化】（昔話や童謡、季語を入れた俳句、稲作文化の影響を受けた正月やお盆など年中行事―筆者）「外来文化を受け入れる姿勢、自然を愛でる心、稲作中心の文化などが合わさって、日本人の『助け合い』や『和』の精神、『勤勉な気質』がはぐくまれた…」</p> <p>「日本人の『助け合い』や…がはぐくまれた背景を説明しましょう」</p> <p>3 文化の継承と創造 ㊟ 伝統は時代とともに変化する（石川県輪島市、輪島塗ランプパリで販売の新聞記事―筆者）、笠間焼の陶器市</p> <p>【伝統文化を受けつぐ】「長い歴史のなかで受け継がれてきた…伝統文化（歌舞伎、茶道、能・狂言、和歌・俳諧、和服などを例示―筆者）」</p> <p>「伝統とは、人々が過去から受け継ぎ、現在の社会において人々が価値あるものとして認め、未来に伝えていこうと考えているもの」「文化や伝統について考えることは、より良い社会や集団のあり方を求めて、先人の営みをふりかえることでも」「地域の伝統文化を存続していく努力が各地で…」</p> <p>㊟ 伝統芸能を受け継ぐ（長野県大鹿村の歌舞伎）日本文化の博覧会（フランス）</p> <p>【新たな文化を生み出す】「（海外の音楽、ファッションなどの流入と日本の漫画やアニメ、食文化の広がり―筆者）異なる文化がふれ合う機会が増えることは新たな文化を生み出すことにつながり…」</p> <p>「新たな文化を生み出すために、自国の文化をしっかりと身につけたうえで、他国の文化にも数多くふれていくことが大切」[あなたが世界に広めたい日本の文化を一つ取り上げ、理由を説明してみましょう]</p>

れない。「平成元年版」教科書には、「文化の伝統」という表記はなく、「長い歴史を通して形成されてきた（あるいは、受け継がれてきた）伝統文化」（東書版、帝国版）のように「伝統文化」の用語が使われている（6点）。「平成20年版」教科書でも、「長い歴史のなかで受け継がれてきた伝統文化」（東書版ほか）のように「伝統文化」の用語が使われており（5点）、ほとんど違いはない。ただ、「伝統文化」の具体例を豊富な図版で紹介する視覚効果は高い（育鵬版は顕著）。また、科学技術の粋を集めたスカイツリーの心柱には、五重塔の建築構造の伝統が活かされている記述（教出版、育鵬版）などは興味深い。

他方で、「平成20年版」教科書では、日本文化の精神性に言及する記述が見られる。「伝統文化」として「おかげさま」「おもてなし」などを例示したり（東書版）、東日本大震災の際に見られた日本人の「助け合い」「和」（帝国版）や「勤勉さ」を取り上げるなどしている（3点）。さらに「伝統」に含まれる精神性について指摘したが、これは「解説」にある「日本人の心情やものの考え方の特色」を受けて取り上げたものと考えられる。同じく「解説」に記述された「我が国の伝統と文化が自然や社会とのかかわりの中で受け継がれてきた」点を受けて、日本文化が中国や欧米など外来文化を吸収しながら形成されてきたという記述内容は、「平成元年版」より詳細になる。この結果、年中行事に見られるような日本文化の混雑性が強調される。こうした時間軸での文化的多様性に加えて、琉球文化やアイヌ文化を紹介して（3点）多様な文化の形成が日本文化を豊かにしたと記述する教科書も登場した（東書版）。このように、日本の伝統と文化がハイブリッドな特徴を有しているという記述は、「伝統と文化」の固定した見方・考え方を揺さぶるとともに、地方の文化に注目させる視点を提供していると考えられる。

- (3) 「文化の継承と創造」に気付かせる部分は基本的な内容に変更はないが、文化を通じた地域の活性化、日本文化の海外発信などの記述が登場した。

「平成元年版」教科書では、「文化の継承と創造」についても一般的な記述が多い（東書版、帝国版）。「伝統文化」を使用するか否かは分かれるが、過去の価値ある文化が社会の発展につながったこと、私たちがこれを受け継ぎ、文化の創造に努めることを規範的に記述する傾向は共通している。これに合わせて、図版では伝統工芸や伝統芸能を受け継ごうとしている子どもたちの姿を紹介する（6点）。「平成20年版」でも記述の基本傾向は変わらない。

「平成20年版」の「指導書」「解説」では、「平成元年版」と同様、「文化の継承と創造」について指導する具体的な内容を4点明記している。①よりよい（豊かな）生活の実現に向けた新しい文化創造への努力の必要性、②文化の創造に伝統の継承（伝統を生かすこと）が含まれること、の2点はほぼ継承される一方、③普遍的で個性豊かな（個性ある）文化が育ちうること、には「普遍的な」が追記

され、④自国の伝統と文化（自国の文化の個性）を大切にすることは他国の伝統と文化を認め、尊重することにつながる（他国や多民族の文化の個性を認め尊重すること）、では文化を国家単位に揃えるなどの変更があった〔（ ）内は「平成元年版」の表記一筆者〕。このうち既述した③を除くと、①、②に関しては記述に大きな変更はなく、④については日本国内の多文化的状況に触れるなどして日本の文化的多様性を記述する傾向がある。

そのうえで、「平成20年版」教科書の記述で、とくに注目されるのは次の2点である。第一は、まちづくり・地域再生における文化の機能を取り上げた記述である。地域文化の継承の事例は「平成元年版」でも扱われており、「文化」の学習が削除された「平成10年版」においても、「個人と社会」の中項目において、地域社会で衰退する伝統文化に注目させる記述などはあった（4点）。「平成20年版」でも、少子高齢化や過疎化のなかで地域の伝統文化を継承したり（東書版、帝国版）、中学生の「復興“輪”太鼓」が地域の復興を勇気づけたりする活動が例示され、文化がもつセーフティネットの機能に気付かせる学習材となりうる。さらに、浜松市の多文化共生のまちづくり（東書版）や、地域全体を展示スペースとする芸術祭（「大地の芸術祭」）（教出版）を挙げて、まちづくり・地域再生における文化の働きに気付かせる記述が新しい。文化が地域に住む新しい住民とつながり、地域外の人ももつながって新しい地域の文化を創造するという視点は「解説」には言及がなく、示唆に富む。

第二は、日本の現代文化として、アニメや漫画、音楽、柔道、寿司などの食文化を取り上げる記述である。「平成20年版」教科書には、若者を中心とした現代文化を豊富な具体例で紹介するとともに、グローバル化の相互交流のなかで、これらの文化が世界に注目され、発信されている点に注目させる記述や図版が多い（帝国版など6点）。なかには日本文化の博覧会「ジャパンエキスポ」の図版もある（帝国版など3点）。ただ、日本文化の海外への広がりを選ぶ場合、受け入れ側の日本文化の評価を考える必要がある。例えば、「柔道」の図版のカラー柔道着に着目して、「白は伝統」とした日本柔道界の主張は退けられ、「JUDO」となっていく事例⁽⁷⁾は、文化の広がりと変容を考えさせる好例になる。

これに関連して、「解説」に言及はないが、「文化には変わる部分と変わらない部分がある」といった記述（帝国版、日文版）がある。これも「文化の継承と創造」の見方・考え方を提供する重要な指摘である。最後に、「平成20年版」で重視される「言語活動」については、「身近で伝統文化が保存、継承されている例を挙げよう」（東書版など）、「日本の伝統文化から、これからの社会に生かせるものやことを考えよう」（日文版など）といった記述が多い。「文化の継承と創造の意義について気付かせる」ねらいから考えると、後者は公民的分野の学習がす

【表4】「平成20年版」国際単元における「文化」の教科書記述〔著者作成〕

〔凡例〕㊦は写真を、㊧は資料を、㊨は図版などを示す。掲載した内容は一部省略しているものもある。

東書版	帝国版
<p>第5章 地球社会と私たち</p> <p>1節 国際社会の仕組み</p> <p>2節 さまざまな国際問題</p> <p>3節 これからの地球社会と日本</p> <p>1 文化の多様性の尊重 ㊦世界遺産（サン・ピエトロ大聖堂、法隆寺等）㊧世界の宗教分布</p> <p>【グローバル化の中の文化】「文化の多様性」「文化の画一化」「言語の約2500が消滅の危機」「パーミアンの石仏の破壊」㊨パーミアンの石仏</p> <p>【文化の多様性の尊重】「世界遺産条約」「文化の多様性に関する世界宣言」は文化の多様性を「人類共通の遺産」とであると位置づけ、社会の発展や民主主義に欠かせないものである」</p> <p>【宗教や民族の多様性】「…相互理解の不足などによって異なる宗教や民族の間で対立が起こっているところも…」「…対立が地域紛争や照りリズムの原因にも…」「…平和を推進するために異なる宗教や民族の間で対話や和解の努力が進められています」㊧文化の多様性に関する世界宣言 ㊨大学への登校を止められる学生（フランス）</p> <p>・公民にチャレンジ：文化の多様性の尊重とはどういうことか考えよう</p> <p>【異文化理解と国際協力】「（異文化理解）は世界の人々が協力し合い、さまざまな国際問題を解決して持続可能な社会を実現していくために欠かせません。異なる文化を持つ人々どうしがたがいに尊重し合い、学び合いながら共存・共生図っていくことが求められています」</p> <p>「『世界宣言』の「文化の多様性は人類共通の遺産」とはどのような意味か自分の言葉で説明しましょう」㊨ルーマニアと日本の中学生の交流</p>	<p>第4部 私たちと国際社会</p> <p>第1章 世界平和の実現をめざして</p> <p>1 国家と国際社会</p> <p>2 領土をめぐる問題</p> <p>3 今なお解決しない紛争</p> <p>【紛争の背景にあるもの】「民族、宗教、言語などの文化の違いが民族紛争に発展する場合も…。例えばパレスチナにおいては…」「アフリカなどの多くの国でも紛争が続いて…。…その背景に…不公正な統治と社会の貧困があることも…」㊧消えない相互不信 パレスチナ問題</p> <p>㊨紛争や反政府運動が起きているおもな地域</p> <p>㊨戦闘によって荒廃した市街地（シリア）</p> <p>㊨民主化を求める人々（エジプト）</p> <p>【テロリズムの増加】</p> <p>【平和実現の難しさ】</p> <p>「紛争と貧困の悪循環を断ち切るにはどのようなことが必要か、あなたの考えを書いてみよう」</p> <p>4 核兵器の脅威と軍縮の動き</p> <p>5 戦争の被害と人権</p> <p>㊧16歳の少女が訴える「教育を受ける権利」</p> <p>【戦争の被害者はだれ？】</p> <p>【安心して生活するための人権保障】</p> <p>㊧「ルワンダの奇跡」</p> <p>【平和の条件】</p> <p>「…さらに政府だけでなく、異なる文化をもつ社会の間でもおたがいの理解を深める必要があります。…民間での交流を深め、たがいに人権を尊重し合い、異なる文化を相手の立場から理解する異文化理解をはぐくむことも平和の条件です」[国際的な人権保障と内政不干渉の原則がどのような関係にあるか説明しましょう]</p>

すんだ段階で改めて問い直してみることも考えられる。

- (4) 国際単元の「宗教や文化の多様性」では、異文化理解の重要性を説いて締めくくる記述が多い。

今回国際単元に初出の内容の教科書記述は、多彩である。ただ、国際政治における宗教や文化の多様性を独立したテーマで見開きページを構成する教科書が4点あるのは注目される。記述のなかでは「宗教や文化」は分けずに扱うのが多いのも特徴である。記述傾向は、地域紛争と関連付けて扱う場合（帝国版など3点）と、地域紛争を絡めないで扱う場合（東書版など3点）に大別される。地域紛争と絡める場合は、紛争の背景・要因にある宗教や文化の違いに着目して、社会的

なつながりを強化する文化の働きをネガティブに見る。しかし、「宗教や民族文化が原因とされる問題を見るときには、それ以外の・・・解決可能な要因にも注意を払わなくてはなりません」（日文版）のように、国際政治を多面的・多角的な見る視点が示される記述もある。他方で、ユネスコの文化多様性宣言や文化多様性条約を取り上げて文化の働きをポジティブにとらえる点に力点を置く記述（東書版）もある。いずれも、最後は異文化理解の重要性を説いて締めている。

「解説」では、「地理的分野、歴史的分野における学習の成果を踏まえ、『国際社会における文化や宗教の多様性についても触れ』ながら、国家間の相互の協力や各国民の相互理解と協力が世界平和の実現と人類の福祉の増大にとって大切であることについて認識させる・・・」とあり、異文化理解で締める記述は「解説」のねらいからみて妥当だと考えられる。また、ユネスコの文化多様性の宣言や条約を挙げて、国際政治における文化の役割を理解させようとする記述は、社会単元の「文化」の学習とも関連付けて扱うことができると考えられる。

以上で明らかになったように、教科書の記述は、「平成20年版解説社会編」の内容をかなり反映しているといえるが、同時に「解説」では明示されない視点も抽出できた。そこで、「解説」には例示されていない具体事例も含め、教科書記述で新たな視点や事例が示された背景を、時代の動向から探りたい。

Ⅳ．時代の動向と「文化」の学習の位置付け

前節で「平成20年版」教科書の記述や図版から抽出された「多様性」、「世界遺産」、「地域の活性化」、「日本（現代）文化（の海外発信）」などは、現代社会のトピックであるが、そこには「文化」に関わる時代の動向が絡んでいるのではないか。そこで、「平成元（1989）年版」から「平成20（2008）年版」告示後までの間にみられた、「文化」に関わる時代の動向を明らかにし、それが「文化」の学習とどのように関わっているのかを考察したい。

第一は、文化の多様性に関わる内外の動向である。ユネスコは、2001年に「文化の多様性に関する世界宣言」を発し、2005年には文化多様性条約を成立させた。「世界宣言」は、文化の多様性を人類の交流、革新、創造の源ととらえており、そこには文化の多様性を紛争の原因ではなく、豊かさの源泉と考えるユネスコの理念が反映されていた（服部2016）。「文化の多様性」は、2002年ヨハネスブルク・サミットを経て「ESDの10年」の取組に盛り込まれ（古沢2017）、2015年、国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にも明記された。

「文化の多様性」は、世界遺産の仕組みにも関わっている。1992年、日本は世界遺産条約を批准し、翌年法隆寺、姫路城などが文化遺産として初登録された。また2004

年から別条約で無形文化遺産が設定され、能楽（2008年）、和食（2013年）などが登録された。世界遺産は、「顕著な普遍的価値」であることが登録基準とされるが、単なるナショナルな国宝ではなく、文化ナショナリズムを超えて多様な文化の総体を世界に提示する（西村・本中2017、p.186）という、文化の多様性の考え方を体現している。さらに「文化の多様性」は、国内自治体の政策動向とも関わる。2006年、総務省は、増加する外国人住民が地域社会のなかで共生できるよう支援し、地域の活性化を図るとして「地域における多文化共生推進プラン」を地方自治体に向けて発出した。これは「多文化共生」を中央官庁が文書で初めて用いたものであり、現在も自治体の政策のベースとなっている。

こうした文化の多様性をめぐる動向は、「文化」の学習とどのように関わるのだろうか。それは、教科書では国際単元で記述されるユネスコの「文化の多様性」の動向が、社会単元と深く関わっているという点である。日本の世界遺産も、自国文化の誇りに訴えるだけでなく、他国・他地域の文化遺産と比較してその多様性に気付かせることができる。例えば、信仰の山として日本人に親しまれてきた富士山は山自体が信仰の対象であったのに対して、同じく世界遺産のギリシアのアトス山は山中の宗教施設に価値があったという興味深い比較もできる（西村・本中、前掲）。

だが、より重要なのは、「文化の多様性」を国際紛争や海外での問題に留めず、日本国内の多文化共生と関連付けることである。すでに学習指導要領解説や教科書記述で明らかにしたように、社会単元における「文化」の学習では、日本の文化が海外文化を吸収しながら歴史的にも空間的にも形成されてきた多様性を確認した。文化の変化に着目すれば、多様な文化の交流が、社会の発展につながる働きをしてきた。「文化の多様性」からは、グローバル化のすすむ現在の日本の多文化的状況を、「文化」の学習対象として位置付けることができる。しかし、さきの「多文化共生プラン」が、各自治体が外国人住民に生活者としての各種サービスを提供するに留まっており（岩淵2010）、マジョリティである日本人、日本文化が前提で、違いの相互認識などの共生理念がないと批判もされる（原2010）。外国人労働者拡大を始めた2019年4月以降も、国として多文化主義を議論はしておらず、日本の多文化共生の課題は未解決のままである。多文化社会は、さまざまな差別や葛藤を抱えている。異文化理解を単なる心構えとせず、実際に違いを相互認識し、対立を乗り越えて共生できる公正な社会、新しい文化の創造を構想することが求められると考える⁽⁸⁾。

第二は、国あるいは自治体による文化政策の積極的な推進の動きである。2001年に文化芸術振興基本法が成立し、政府が文化財保護政策に留まらず、文化芸術分野の振興に関与することになった。同法に基づく2011(平成23)年の第3次基本方針からは、文化財を観光や産業振興に活用する方向性が明確になるとともに、その前年に閣議決定された「新成長戦略」でも、文化遺産の活用を地域経済の活性化につなげることが

国全体の取組課題となった。2015（平成27）年の第4次基本方針では「日本遺産」が設けられ、文化財を活用した観光振興・まちづくりは、2017（平成29）年に改正・改称された文化芸術基本法に継承される（河村・伊藤2018）。他方で、1998（平成10）年に成立したNPO法により、アートNPOが地域文化の活性化に寄与するようになり（吉本2016）、また自治体や企業主催のトリエンナーレ、ビエンナーレ形式の国際芸術祭も広がった。さきの第3次方針では「新しい公共」の活動促進が謳われ、第4次方針では政府・行政組織と一定の距離を保ちながら文化政策を執行する「地域アーツカウンシル」の本格導入が盛り込まれた（吉本、前掲）。

政府はさらに、2010（平成22）年からアニメ、映画などの文化コンテンツの輸出促進を図る国家プロジェクト「クールジャパン戦略」を開始した。「クールジャパン戦略」は日本の特色ある商品・サービスを発掘・創造し、日本の経済成長につなげる目的で、対象を拡大している（鈴木2013）。フランスで開催されている「ジャパンエキスポ」は日本のアニメに魅せられたフランス人がコンテンツに特化したイベントとして2000年に始めたが、その後日本文化・ポップカルチャーの総合的な祭典に発展している⁽⁹⁾。経済産業省は、2011（平成23）年からこの戦略の一環として、日本の文化産業の発信と海外販路開拓支援のために出展している。日本文化は国家戦略として積極的に発信されているのである。

こうした動向からは次の2点が導かれる。第一に、国や行政という公的領域に、思想信条の表現を伴う「文化」が関与する場合、法的には、文化の自主性・自律性の問題と、公的助成の正統性の問題が論点となる（中村2018）。これは、国や自治体が公的資金を使って開催する芸術祭の表現内容にまで介入する場合を想定すれば容易に想像されることであり、「文化」と不可分な憲法の学習テーマでもある。「文化」の活動が保障されることは、極めて重要となる。第二に、同じく権力が「文化」を発信する戦略を推進する場合、「文化」は競争力の源泉とされるが、ここでは「文化」の価値が問われる。「クールジャパン戦略」では、「文化」はその芸術的価値よりも、外交的価値や経済的価値が重視されることになる。渡辺は、ポップカルチャーは官主導になればなるほど、若者にとって「クール」でなくなる恐れがあるとして、政府による対外発信の限界を指摘する（前掲、pp.110-111）。

こうして得られた知見を「文化」の学習に引き寄せるならば、「文化の継承と創造」の活動を、どのように保障された場・領域で、どのような価値を追求して行うかという自らへの問いかけに結び付く。「平成20年版」の社会科の改善事項で触れた「国家・社会などの『公共』の形成に主体的に参画する日本人の育成」に登場する「公共」は、市民として関わる国家、地域社会、企業、NPOなどからなる。そのうえで、松田の論考（2018）を参考にすれば、「文化」の学習では、芸術的、政治的、経済的、社会的、宗教的などの文化の多様な価値のいずれを優先して「文化の継承と創造」に参画する

【表5】「平成29年版」社会科3分野における「文化」の主な扱い

<p>地理的分野</p> <p>A 世界と日本の地域構成</p> <p>B 世界の様々な地域</p> <p>(1) 世界各地の生活と環境 (取扱い) 衣食住の特色や生活と宗教との関わりなどを取り上げる…。 [解説] 人々の生活を中心とした文化の学習については、1つの事例が…過度な一般化を招きやすい。…文化を固定的なものとして捉えたり、特定の民族に対する固定観念をもったりする学習とならないように…。…多様な文化を尊重する態度を身に付ける…。</p> <p>(2) 世界の諸地域 ②ヨーロッパ州 [解説] 主題例：文化の多様性に関わる課題</p> <p>C 日本の様々な地域</p> <p>(3) 日本の諸地域 ①自然環境を中核とした考察の仕方 ②人口や都市・村落（※以下、①と同様） ③産業 ④交通や通信 ⑤その他の事象 [解説] ⑤については、例えば、地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事象、地域の環境問題や環境保全の取組、地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象などを中核として…。 (取扱い) <u>地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること。</u></p>	<p>歴史的分野</p> <p>A 歴史との対話</p> <p>(2) 身近な地域の歴史 ア（知識、※以下同）(ア)自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、…地域の歴史について調べたり、…まとめたりするなどの技能を身に付けること。 (取扱い) …人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの地域の施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること。 [解説] 例えば、地域に残る文化財や、地域の発展に尽くした人物の業績とそれに関わる出来事を取り上げ、…。</p> <p>B 近世までの日本とアジア</p> <p>(1) 古代までの日本 ア(ア)世界の古代文明や宗教のおこり (イ)古代の文化と東アジアとの関わり</p> <p>(2) 中世の日本 ア(イ)武家政治の展開と東アジアの動き (取扱い) …<u>琉球の文化</u>についても触れること。 [解説] <u>アジアとの交流の中で育まれた琉球独自の文化について触れること。</u> ア(ウ)民衆の成長と新たな文化の形成</p> <p>(3) 近世の日本 ア(イ)江戸幕府の成立と対外関係 (取扱い) …アイヌについて取り扱う…。 …アイヌの文化についても触れること。 [解説] <u>先住民族として言語や宗教などで独自性を有するアイヌの人々の文化についても触れるようにする。</u> ア(ウ)産業の発達と町人文化 (取扱い) 「各地方の生活文化」については、身近な地域の事例を取り上げるように…。</p> <p>C 近現代の日本と世界</p> <p>(1) 近代の日本と世界 ア(イ)近代産業の発展と近代文化の形成 (取扱い) 「近代文化」については、伝統的な文化の上に欧米文化を受容して形成されたものであることに気付かせる…。 [解説] 学問・教育・科学・芸術の…進歩が著しかったことに気付く…。 ア(ウ)第一次世界大戦の国際情勢と大衆の出現 [解説] 文化の大衆化については、生活様式や意識の変化、新聞・雑誌の普及やラジオ放送の開始などを扱う…。</p> <p>(2) 現代の日本と世界 ア(イ)日本の経済の発展とグローバル化する世界 (取扱い) …民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応などを取扱い、…。</p>
<p>公民的分野 ※ [解説] は省略した。</p> <p>A 私たちと現代社会</p> <p>(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色 位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア（知識）(イ)現代社会における文化の意義や影響について理解すること。 (取扱い) …科学、芸術、宗教などを取り上げ、社会生活との関わりについて学習できるようにすること。 イ（思考力、判断力、表現力等）(イ)文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現すること。 (取扱い) …我が国の伝統と文化などを取り扱うこと。</p> <p>(2) 現代社会を捉える枠組み</p> <p>D 私たちと国際社会の諸課題</p> <p>(1) 世界平和と人類の福祉の増大 イ（思考力、判断力、表現力等）(ア)…国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。 (取扱い) …国際社会における文化や宗教の多様性について取り上げること。</p>	

※枠内の（取扱い）は「内容の取扱い」、[解説]は「学習指導要領解説」のことである。また、下線部（筆者）は平成29年改訂における、「文化」にかかわる追加・変更点を示す。

[著者作成]

かを、「公共」を念頭に考えていく。「文化の継承と創造」が、地域を舞台に行われることを想定すれば、それは観光などによる経済的価値の追求なのか、地域の祭りなどへの参画を通じた社会的価値の追求なのかを考えるなかで、自分にとっての「文化」の意味を問うことにもつながるのである。

「文化」をめぐる近年の動向を振り返ると、現代社会における「文化」の役割が大きくなっていることがわかる。「文化」の学習は、政治、経済、国際のどの単位とも深く関わり、そのなかで対立と合意や、効率と公正などの概念を活用した場面も考えられる。「文化」の学習は、公民的分野の核に位置付けられるとさえいうことができるのである。

V. 終わりに

最後に、新たに告示された「平成29年版」社会科公民的分野の「文化」の学習の位置付けに触れて、まとめとしたい。社会科における「文化」の学習は、【表5】から明らかなように、3分野で従前の棲み分けが踏襲されている。地理的分野と公民的分野では、下線部にあるような加筆・変更が行われた。歴史的分野では、日本列島の地域的多様性がより明確になった。地理的分野では、「日本の諸地域」の指定された考察の仕方から、現行に明記されている「地域の伝統的な生活・文化」を中核とした考察がはずれた。しかし、生活・文化や地域の伝統は地域の考察全体に関連付ける内容となり、むしろ「文化」の学習は地域学習の基盤に位置づけられた。これに対して、公民的分野の「文化」の学習は、改訂の要点に「現代社会の特色、文化の継承と創造の意義に関する学習の一層の重視」が盛り込まれたが、基本構成に変更はなく、内容についてもほぼ現行版を踏襲している。

「平成29年版」では、教育課程全体で3つの柱からなる資質・能力の育成を図る方針を掲げ、その実現のために見方・考え方を働かせて課題を追究、解決する活動が重視されている。「文化」の学習の置かれた社会単位では、「位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して」活動を行うことが求められており、地理的分野と歴史的分野の見方・考え方を活かした学習が想定されている。これは、公民的分野の導入単元に地理的・歴史的分野の学習からの接続を図る役割をもたせる「平成20年版」の構成を、現場での実践上の課題も踏まえて⁽¹⁰⁾ 一層強化したものと考えられる。また、学習指導要領の「内容」では、資質・能力を、知識・技能と思考力、判断力、表現力の育成を分けて記述することに伴い、現行版と異なる点が2点生じた。第一は、「我が国の伝統と文化に関心をもち、文化の継承と創造の意義」について考察・表現する活動で取り扱うとされたことである。これは、関心の喚起が今回の分類の枠に収まらなかったためと考えられる。第二は、「文

化の継承と創造の意義」に「気付かせる」が、「多面的・多角的に考察し、表現する」に大きく変わった点である。これは、「文化の継承と創造の意義」という内容項目を「文化」の学習の核とすることを意味する。この点では、既述した、現行版教科書にも見られる言語活動の課題を中心に据えることができる。

さらに、従前と同様に「文化」の学習の後に、中項目で「現代社会を捉える枠組み」が設定され、ここで対立と合意、効率と公正などの概念を学ぶ順序になっている。このため、前節で述べたような学習例の実践は、一定の留保が必要となる。このように社会単位における「文化」の学習は、現代社会の見方・考え方を学ぶ前に履修し、しかも地理的・歴史的分野の成果を活かすことに力点が置かれる位置付けであることに伴う限界が見えてくる。

前節で述べた通り、現代社会における「文化」は政治・経済・国際政治とも一層関連が深くなっていることから、分野全体を見据えた「文化」の学習の構想が今後必要となってくると考える。本稿ののちは、構想を具現化する授業計画を提案するとともに、「公共」を新設必修科目とした高等学校公民科や地理歴史科における「文化」の学習の位置づけや、中学校社会科との接続についても検討したい。

《注》

- (1) 「文化のよい伝統を継承」とあるのは、「古い因習などは取り去って行く必要がある」（「昭和33年版社会指導書」p.7）ことを念頭に置いている。この表現は次の「昭和44年版」まで使用される。
- (2) 「平成元年版」の改訂方針となった昭和62年教育課程審議会答申では、基準の改善のねらいに「④国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること」とあるにもかかわらず、学習指導要領の公民的分野の「文化」に関する指導内容には「継承」が追加されただけで、従前の趣旨が踏襲されている。
- (3) 「伝統と文化」の表記は、歴史的分野の目標では「昭和52年版」から登場した。
- (4) この定義は、本法逐条解説書にも掲載されており（田中、前掲、p.51）、さらには『広辞苑第7版』（岩波書店2018）にある定義とほぼ同じである。
- (5) 文化庁「文化芸術の振興に関する基本的な方針（平成14年12月10日閣議決定）」については、以下を参照（令和元年8月18日アクセス）。
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/hoshin/kihon_hoshin_lji/index.html
「文化的多様性に関する世界宣言」については、文部科学省・ユネスコ国内委員会の仮訳を参照（令和元年8月18日アクセス）。<http://www.mext.go.jp/unesco/009/1386517.htm>
- (6) 「平成20年版」の教科書は、東京書籍（東書版）、教育出版（教出版）、清水書院（清水版）、帝国書院（帝国版）、日本文教出版（日文版）、自由社（自由版）、育鵬社（育鵬版）の8点である。なお、育鵬版（平成23年検定）以外は、平成27年検定版を使用した。また、「平成10年版（平成13年検定）」は、東書版、教出版、清水版、帝国版、日文版のほかは、日本書籍（日書版）、大阪書籍（大書版）、扶桑社（扶桑版）の8点である。「平成元年版（平成4年検定）」は、日書版、東書版、大書版、教出版、清水版、帝国版のほか、中教出版（中教版）、

学校図書（学図版）の8点である。本文では、カッコ内の略称を使用する。

- (7) 「国際社会におけるカラー柔道着への流れ」（「朝日新聞」1996年12月12日付）を参照。
- (8) 地理的分野ではあるが、木村は基本的人権や公正・公平などの概念を補足提示しながら「日本の入浴施設がマオリの刺青を拒否したことを考える討論学習」を実践している。社会科でも多文化教育の実践が始まっている（森茂・川崎・桐谷・青木編 2019）
- (9) 「Japan Expoの歩み」参照。
<http://www.japan-expo-france.jp/jp/>（令和元年8月12日アクセス）
- (10) 澁澤（2014）は第3学年の1学期は歴史学習、2学期から公民学習を行っていると思われる現場の状況を懸念して、1学期に歴史的分野の「現代史」、公民的分野の「現代の日本社会と文化」を併行履修する提案をしている。

<引用文献>

- 青木保、1992、『「伝統」と「文化」』（ホブズボウム、テレンス編著『創られた伝統』紀伊國屋書店）
- 岩渕功一、2010、「多文化社会・日本における＜文化＞の問い」（岩渕功一編『多文化社会の＜文化＞を問う』青弓社）
- 大塚英志、2004、『「伝統」とは何か』筑摩書房
- 大友秀明、2014、「社会科教育における『文化学習』の意義と可能性」『埼玉大学紀要 教育学部』63(1)
- 河村建夫・伊藤信太郎編、2018、『文化芸術基本法の成立と文化政策』水曜社
- 澁澤元隆、2014、「中学校学習指導要領実施上の課題とその改善（社会）」（『中等教育資料』平成26年6月号）
- 鈴木絢子、2013、「クールジャパン戦略の概要と論点」（『調査と情報』No.804）
- 田中壮一郎監修、2007、『逐条解説 改正教育基本法』第一法規
- 中村哲編、2009、『伝統や文化に関する教育の充実』教育開発研究所
- 中村美帆、2018、「文化政策と法」（小林真理編『文化政策の現在3 文化政策の展望』東京大学出版会）
- 永添祥多、2011、『日本文化理解教育の目的と可能性—小・中学校の事例を中心として—』風間書房
- 西村・本中編、2017、『世界文化遺産の思想』東京大学出版会
- 日本国際理解教育学会編、2012、『現代国際理解教育事典』明石書店
- 日本文化人類学会、2009、『文化人類学事典』丸善
- 服部英二、2016、「文化の多様性に関する世界宣言と未来世代の権利」（総合人間学会編『総合人間学10 コミュニティと共生』学文社）
- 原知章、2010、「多文化共生」をめぐる議論で「文化」をどのように語るのか？」（岩渕功一編、前掲書）
- 古沢広祐、2017、「持続可能な発展と多文化世界」（國學院大学研究開発推進センター編『共存学4 多文化世界の可能性』弘文堂）
- 松田陽、2018、「保存と活用の二元論を超えて」（小林真理編、前掲書、東京大学出版会）
- 森茂・川崎・桐谷・青木編、2019、『社会科における多文化教育』明石書店
- 安野功、2010、「伝統・文化に関する教育を充実させるためのポイント」（『初等教育資料』平成

22年11月号)

吉本光宏、2016、「地域アーツカウンシル その現状と展望」(『ニッセイ基礎研究所報』Vol.60)

渡辺靖、2015、『＜文化＞を捉え直す』岩波書店

文部省、1959、『中学校社会指導書』実教出版〔本文では、「昭和33年版社会指導書」と略記〕

文部省、1970、『中学校指導書 社会編』大阪書籍〔同上、「昭和44年版指導書 社会編」〕

文部省、1978、『中学校指導書 社会編』大阪書籍〔同上、「昭和52年版指導書 社会編」〕

文部省、1989、『中学校指導書 社会編』大阪書籍〔同上、「平成元年版指導書 社会編」〕

文部省、1999、『中学校学習指導要領解説-社会編-』大阪書籍〔同上、「平成10年版解説 社会編」〕

文部科学省、2008、『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版〔同上、「平成20年版解説 社会編」〕

文部科学省、2018、『中学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版〔同上、平成29年版解説 社会編〕

文部科学省、2018、『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版

「国立教育政策研究所 学習指導要領データベース」<https://www.nier.go.jp/guideline/>